

第3号

発行 宝木地域づくり推進協議会

宝木地域コミュニティセンター内

(事務局)

〒320-0065 宇都宮市駒生町3364-29

(宝木小学校内)

TEL・FAX 028-624-0531

(印刷) DTP de-co

(題字 北條信男 書)

宝木だより

備えあれば…

防災訓練実施

「災害は、忘れた頃に」とか言われておりますが、最近では事件事故ばかりか地震もひんぱんに発生しております。幸い本市では、「今市地震」以来六十年大きな地震に遭遇しておりませんが、火災はたびたび発生しております。しかし、万が一身近で災害が生じた場合の心構えを身につけておけば、とっさに次の行動をとることにより災害から逃れられるか最小限の被害にとどめることができます。

そこで二月二十一日(木)宝木地域コミュニティセンターにおいて、火災発生を想定して利用者を対象に通報訓練と避難訓練を行いました。また三月三日(月)には、関東バス駒生営業所において車両衝突により火災が発生し、車両からダミーの運転手を救出する消防訓練があり、実際に見学し改めて災害の恐ろしさを実感することができました。

更に三月九日(日)宝木小学校で恒例の宝木地区防災訓練を地区住民約二百五十名の参加をえて実施しました。特に今回は、午前十時に大地震が発生したことを想定し、児童約百名が各自自治会ごとに育成会役員の引率で避難場所である宝木小学校に避難する訓練を行いました。最も遠いところで三十分かかりましたが、実際は家屋や石塀の倒壊などで迂回することもあったので相当の時間がかかると思われました。その後児童達はハシゴ車や起震車により高所からの避難や地震の体験をしたほか、地区住民による様々な訓練や消防団第十一分団の方々のポンプ操法訓練などを見学。最後に避難住民への炊き出し訓練の食事を、参加者や見学者全員が頂いて午後一時訓練のすべてを終了しました。

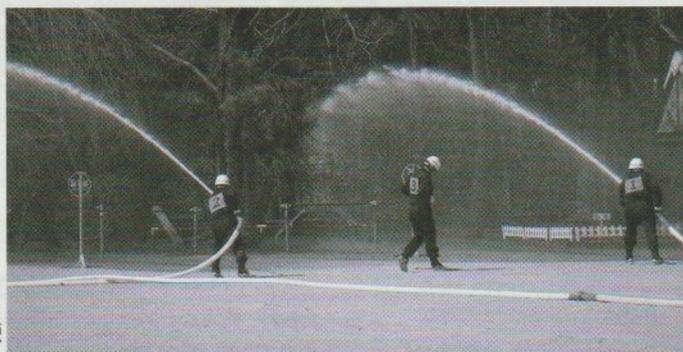


救急蘇生法



資機材取り扱い訓練

ハシゴ車体験



ポンプ操法訓練



自治会めぐり ②

宝木一―二自治会

こんにちは、宝木一―二自治会です。

私たちの地域は、大谷街道の北側で陽西中学校の西側に位置し、自治会の加入世帯は四三八世帯、四十五班で構成しています。近年、宅地化が進み人口が増加した地域であります。長年住んでおられる人と新たに住まわれる人がほぼ拮抗する地域で、地域づくりに欠かせない住民の親睦をいかに図り、住んでよかった、住み続けたい、安全で安心して暮らせる地域を創ろうと各種行事への参加を積極的によびかけているところです。

としています。

一昨年からは、自治会・体育部を中心に「餅つき」を復活させ、参加する子ども達に餅つきの体験をしてもらっています。

自治会としても「自治会だより」を不定期ではありますが発行して生活関連、行事関連の情報を提供しています。

体育部は、「宝木一―二自治会体育部だより」を定期的に発行全戸配布し、宝木地区球技大会・体育祭などの選手募集、結果報告等を行い積極的に地域の活性化を図っています。

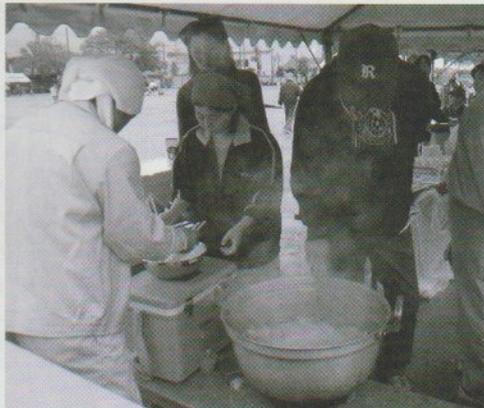
ここの二年は体育部の若手を中心に、自治会会員の皆様に広報勧誘活動を実施してきました。その甲斐もあって新たに参加協力していただける人が増え、宝木地区における各種行事に積極的に参加していただけるようになって来

ました。

必然的に各行事の反省会の参加者も増え、以前にもまして地域内の親睦が図られています。

特筆すべきことは、宝木一―二自治会の、「華宝会」という老人クラブです。華宝会は会員五十二名で誕生会等の行事を通じて地域内の親睦を図っています。平成十八年度に会員有志二十名で防犯パトロール隊を組織し、児童生徒

の安全の確保を主に防犯活動を実施しています。この功績が認められ、二月十八日に、自主防犯団体として平成十九年度栃木県知事感謝状をいただきました。宝木一―二自治会としても誇りであり、地域をあげて防犯防災に取り組んでいこうと考えています。



宝木一―二自治会役員

- 会長 杵淵 広
- 副会長 高橋 弘
- 会計 阿見 和彦
- 監事 安納 弘美
- 民生委員 上野 平次
- 伊藤 静江
- 木村 典子
- 杵淵 雅子
- 中山 修二
- 益山 千秋
- 安納 房江
- 稲葉マチ子

民生委員児童委員名簿 (19年12月1日)

1の1	渡辺 浩	宝木町1-2578	宝木団地	清水 操	宝木町2-1028	市住20-25
1の2	伊藤 典子	〃 1-3-105 (副会長)	〃	高橋 秀雄	細谷町654-4	県住12-31
〃	木村 静江	〃 1-3-180	細谷	鹿嶋 晋	細谷町238 (会計)	
〃	杵淵 雅子	〃 1-42-8	東中丸	後藤 しげ	駒生1-19-47	
1の3	渡辺 憲郎	〃 1-96-3	〃	稲葉 淑子	一の沢2-17-48	
2の1	川口 博之	〃 2-929-4	西中丸	阿部 進	駒生町1148 (会長)	
〃	吉沢 宮子	〃 2-794-13	〃	天谷 恵子	駒生2-19-14	
2の2	田村 保之	〃 2-1105-31 (副会長)	〃	小杉美津江	駒生町3357-4	
〃	村田 久男	〃 2-2573-7	〃	吉田 京子	駒生2-11-33	
〃	高橋 勝也	〃 2-1027	〃	新井 武夫	駒生町1264-3	
〃	福田 幸子	〃 2-1053-17	駒生団地	本田 清二	駒生町1332	県住3-13
宝木団地	清水 信子	〃 2-1028	西中丸	天谷 玉枝	駒生2-14-11	(主任児童委員)
〃	児玉リイ子	〃 2-1028	宝木団地	滝沢江津子	宝木町2-1028	市住6-1066 (主任児童委員)

講座案内

《たからぎ木曜講座》

地区一般成人を対象として木曜日に開催しています。今年は、館外研修で足尾・富弘美術館に行きました。また、ヨガの体験・裁判员制度の講話・リース作り・コンサート・民謡など楽しく有意義な時間を過ごしました。



H19.10.18 足尾館外研修、富弘美術館



H19.10.4 「宝木」の歴史講話



H19.9.20 宇都宮城見学

《あいあいスクール》

地区小学生の保護者を対象に主に木曜日に開催しています。今年は、フラダンスやエアロビクスに汗を流し、親子で益子の陶芸体験やいちご狩りもしました。また、校長先生のお話や手芸に料理を通じ子育ての良き仲間として交流を深めています。



H19.7.25 親子で館外学習 益子で陶芸体験



H19.10.11 宇都宮城見学

《わくわく広場》

地区小学3～6年生とその保護者を対象に土曜日に開催しています。また、地区の育成会の役員の方々にも指導・協力をしていただいています。今年は、宇都宮大学の先生の指導でまち歩きの体験や、ユニホック・ゲートボールで体を動かしたり、貯金箱やケーキにしめ飾りも作りました。



H19.11.24 楽しいケーキづくり



H19.9.15 私たちのまち再発見「宝木」を歩いて



H19.12.22 しめ飾りづくり

平成20年度

行事予定

- 敬老会 九月十四日(日) コンセーレ
- 体育祭 十月十二日(日) 宝木小学校
- 宝木まつり 十一月十六日(日) 宝木小学校
- 防災訓練 三月八日(日) 宝木小学校

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9
昨年順位	(1)	(2)	(5)	(3)	(4)	(6)	(8)	(7)	(9)
今年順位	二の二	西中丸	二の一	一の二	宝木団地	一の一	一の三	東中丸	細谷 駒生団地

平成十九年度宝木地区体育協会が実施した各種球技大会の総合成績がまとまり、このたび表彰を行った。その結果二の二自治会が今年も優勝し、十連覇を達成した。

二の二が十連覇

宝木の歴史(中)



篠原喜三郎

国本村の由来

上代には犬飼庄新里郡と称したが、鎌倉時代は宇都宮氏の支配下に属し、南北朝時代の永和年間(一二七〇頃)は、宇都宮氏の家臣高橋刑部が新里村千三百貫を領していた。近世にいたっては、元和五年(一六一九)本多上野介の所領となり、元禄一四年(一七〇一)に岩本村、仁良塚村は三枝佐平衛の知行地となった。延享二年(一七四五)の頃、山崎新田、細谷新田、仁良塚新田、野沢村、野沢新田、藤岡新田、岩原村、新里村、悟里道新田、高谷林新田、江黒新田、足次新田、西岡新田は宇都宮越前守忠余の領分で、新里村、宝木十か新田、岩原村は、明治維新まで引続き戸田領であった。野沢村は幕末にいたって代官支配地となり、明治七年(一八七四)には足次、高谷林、藤岡、悟里道、仁良塚、西岡、山崎、六軒、細谷、江黒の西原新田十か村が合併して宝木村と称したが、

同十六年には上戸祭、野沢、宝木の三か村は長岡、大曾、山本の三村と連合、新里、岩原は徳次郎に連合、明治二十二年(一八八九)上戸祭、宝木、野沢、岩原、新里の五か村が合併して国本村となった。

水利

寛文十年(一六七〇)松平下総守忠弘のとき幕府の命令により未開の原野を開拓して出来たのが、高谷林、足次、藤岡、仁良塚、悟里道、細谷、江黒、山崎、中丸の各新田であるが、水利の便が悪いので作物が実らなかつた。文政八年(一八二五)に宇都宮藩が通水の計画を立てたが、難所が多く工事が実現しなかつた。その後二宮尊徳の設計によって嘉永五年(一八五二)に着工したが、このときも難工事で完成までにいたらなかつた。ようやく安政五年(一八五七)にいたって堀工事が完成し、各新田を潤すようになった。文政以来実に三十三年目であ

った。

開拓

今の宝木は、元西原と言われ、各領入会の原野であったが、寛文年中、宇都宮城主より幕府に開拓地にするよう上知した。

地受

開拓地とすることを聞き伝え、下都賀郡藤岡、上野国(群馬県)邑楽郡の足次、西岡、江黒、山崎、細谷の各字氏は、

寛文十一年(一六七二)地受をしてこの地に移住した。住民は漸次開拓し数年にして、十カ村を形成した。新開地を開墾後数年は無税であったが、開墾地は全部畑地なので水田が欲しくこれを憂いていた。

願書奉呈

幕府は実地踏査のうえ再び宇都宮城主に預けとなった。そのため延宝四年(一六七六)より開墾残地の分を以前のようになり各字氏の株刈り処とした。

争議

宇都宮城主が開墾残地を各領入会地としたため、十か新

争議の落着

争議がすべて落着いたのは貞享一年(一六八四)三月、岩崎長佐衛門、野村八郎兵衛、田村宇平衛等が最後の訴訟に最も苦心努力して落着した。(前駒生郵便局長)

田村と各字氏との争議が勃発して、争いは百余年続いた。

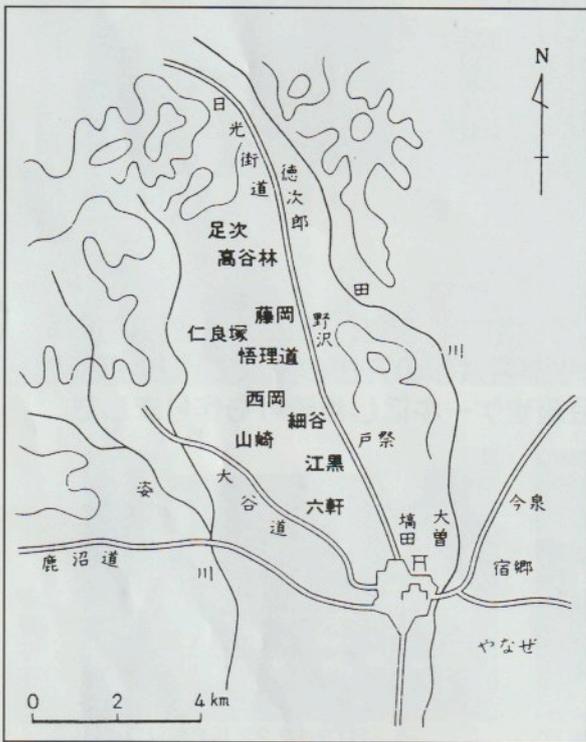
お詫びと訂正

前号の老人クラブ案内で「草宝会」とありますがのは、「華宝会」の誤りでした。深くお詫び申し上げ訂正させていただきます。

編集後記

宝木地区全体で行われている行事、各自治会の紹介など現在の宝木のような軸に、身近に生きている宝木の歴史が加わり「深みのある広報紙」との声も…。

さらに充実した内容を目指しますので、皆様のご協力をお願い致します。



新田 10 か村略図